

上野市社会事業協会

2003

2003年11月25日 第5号
社会福祉法人上野市社会事業協会
発行者 森下達也
編集責任者 西岡時彦
〒518-0032 三重県上野市朝屋739番地の2
TEL 0595-21-5545
FAX 0595-23-6670



写真/落葉の絨毯・曾我宏三

「ララ」への感謝を

社会福祉法人 上野市社会事業協会理事長

森下達也

全国社会福祉協議会は、昭和二十七年十二月に厚生省から発行された「ララ記念誌」を、復刻版として平成八年十一月に再発行された。歴史的にも意義深い事業であったと思うが、実はその折、「ララ」とは何のことか全く知らない日本の福祉関係者が余りにも多いという事実、驚かされたのであった。曾て私は、引揚者の一人としてララの恩恵を受けているから忘れる筈はないとしても、大戦後の混乱と窮乏にあえぐ日本へさしのべられた大きな救援の手としてのララが、易々と忘れられてもよいのであろうか。今日に続く福祉六法体制の創成期のことなのである。

詳しいことはララ記念誌にゆずるとして、ララとは大戦後の日本の街頭をさまよう子ども達、よるべを失った老人や母子家庭、引揚者や復員者、その他多くの戦災者を救援しようと、米国人及び米国在留邦人を中心に南北アメリカ各地の百数十万人が立ち上がって開始した救援活動とその物資のことである。組織された救援団体の頭文字をとって、LARA（ララ）と呼んだのであった。

ララ救援物資を積んだ第一船が横浜に入港したのは、終戦の翌年昭和二十一年十一月、以来数年にわたって送られた救援物資は、ミルク、穀類、衣類、靴、医薬品など、その総量は一万六千七百余トン、その恩恵に浴した日本人は一千数百万人に及ぶといわれる。今日、日本の国際協力を声高にいう。しかしまず、助けられたことは言い伝え、感謝することが必要ではないか。私は、某看護専門学校で社会福祉の講座を長く担当してきたが、教科書の中の歴史の章にも記述されていないララのことを、一度は必ず生徒に話すようにしている。

『ときめきバス旅行』

「おかげ横丁&ブルーメの丘」

三重県身体障害者福祉センターのリフトバス「太陽号」で、秋晴れの九月三十日には伊勢の「おかげ横丁」へ、十月十六日には滋賀県の「ブルーメの丘」に分かれてバス旅行を実施しました。どちらのグループも記念写真を撮った後、利用者の方は、ボランティアの皆さんや職員と、それぞれペアを組んで楽しい時間を過ごされました。▼ おかげ横丁グループの方たちは、お店をゆつくりと観て回ったり、美しい川を眺めたり、また伊勢うどんやてこね寿司等のおいしい食事をされました。その後はお土産を買うなど、それぞれに



伊勢名物 夏期限定 赤福氷に満足！

わたぼうしコンサート 稲森さんの詩が コンサートで披露された

10月26日(日)、ふるさと会館いがで「わたぼうしコンサート」が開催されました。これは、障害がある人たちが日々感じたことや思いを綴った“詩”をメロディにのせて多くの人たちに伝えるコンサートです。30年前に奈良県で始まり、今では全国各地で毎年行なわれていて、伊賀では6回目を迎えます。

今年のかしの木ひろばの稲森弘子さんの詩が入選し、西真澄さんに曲を付けていただきました。稲森さんも、コーラスグループの方々と一緒に舞台上がられ、ピアノとフルートの伴奏で歌が披露されました。ラストは出演した人と観客全員でわたぼうしのうたを歌い、大盛況のうちに終わりました。

一緒に参加したひろばの仲間も素敵な時間を過ごしました。

ふたりで——— 稲森弘子

この夏にゆかたを着てみたい
歩いてお祭りや花火を見に行きたい
あの人とふたりで見に行けたら嬉しいな
そんなことができないのに
夢のようなことを考えている私



コーラスグループ木の葉の皆様と(中央が稲森弘子さん)

楽しい時間を過ごされました。▼ ブルーメの丘グループの方たちは、園内での羊の追い込み込みショーを観たり、世界の犬とふれあったり、コスモス畑の中を花の香りを肌で感じながら歩きました。そして新鮮な牛乳や焼き立てパン、バーベキュー等で満腹になりました。自然いっぱい園内散策は参加者を心ゆくまで楽しませてくれました。かしの木ひろばの利用者の方々



サルビア満開、とてもきれいでしょ(ブルーメの丘)

の声が聞かれました。自然に参加された皆様にとって、思い出に残る行事になった事をスタッフ一同、喜んでいきます。

は、カラオケ好きな方がとても多く、行き帰りのバスの中はカラオケ歌合戦のようになり大変盛り上がりました。

旅行の後、利用者の方々から「時間がゆつたりあつて、十分遊べた」「前から行きたいと思っていたので良かった」などの声も聞かれました。今回の旅行が

平成15年4月1日より支援費支給制度が実施されました。お問い合わせ等は下記まで。

伊賀広域在宅障害者生活支援センター かしの木

上野市寺町1184-2
TEL/FAX 22-2288
(夜間FAX) 21-2745

小学生の 一日点字教室を開催

去る十月十八日、第二回「小学生一日点字教室」を実施しました。二十五組六十名の参加者においていた



ボランティア代表の佐々木聖子さんが、集まった小学生にあかりやすく説明してくださいました。

だき、上野点訳奉仕グループ「あい」の皆さんのご協力で開催いたしました。

語の教科書「手と心で読む」に紹介されている点字に興味を持った小学生、三年生、四年生、また、人権学習の面から視覚障害を学ぼうとする中学、高校生たちが訪れます。

昨年、点字の構成の勉強や点字の実習を中心としましたが、本年は点字の勉強や実習に加えて、ボランティアの皆様が精魂込めて製作した多くの点字図書や録音図書に触れていただくとともに、読書が目の不自由な方々にとっていかに困難かを感じていただきました。参加者は目の不自由な方々の読書環境、点字の歴

史、点字器の使い方学び、課題の文章を一所懸命に点字に書いています。書庫では点字図書をやさしく手にとり、点字に指で触れて、不思議そうに『読めない、読めない』と言いつつ、楽しんで見学していました。



点訳に取り組む小学生

おめでとうございます!!

=日盲社協奉仕者表彰受賞=

九月二十九日から三日間にわたって東京で開催された第五十一回全国盲人福祉施設大会において、上野点字図書館の点訳ボランティア松本貴子さんと古郷栄治さんが奉仕者表彰を受賞されました。今年、日本盲人社会福祉施設協議会(日盲社協)の創立五十周年にあたり、その記念式典もあわせて行なわれました。式典には天皇・皇后陛下の台臨をいただきました。お言葉を賜わりました。その記念すべき

ボランティアの方々が製作された 図書等 (H15/5/31~10/31)

グループ「あい」(点訳)

点訳図書 4タイトル23冊
内PC点訳 4タイトル23冊
製本 3タイトル15冊
点字触読指導、教科書の点訳

グループ「あかり」(点訳)

点訳図書 6タイトル40冊
内PC点訳 4タイトル30冊
教科書・参考書等の点訳
名張市広報の点訳

グループ「しのび」(音訳)

音訳図書 9タイトル50巻
CD図書 14タイトル
上野市広報の音訳、
大山田村広報の音訳
中日新聞コラムの音訳
梨ノ木園・第二梨ノ木園での読書会

グループ「こだま」(音訳)

音訳図書 7タイトル46巻
CD図書 16タイトル
中日新聞コラムの音訳

大会におけるお二人の表彰は当館にとっても嬉しいことです。松本さんは平成三年度の点訳講習会を受講され、修了後は上野点訳奉仕グループ「あい」に入会。蔵書点訳のほか、大学の講義資料や小学校の教科書なども点訳していただいています。また、IT(インターネット)講習会では講師の補助を務め、その受講者が立ち上げたPC(パソコン)クラブのサポートも続けていただいています。



奉仕者表彰を受賞された古郷栄治さん(左)と松本貴子さん(右)

ト、各種資料類なども点訳して下さっています。また、古語から理科系用語まで広い分野に通じておられ、校正者としてもご活躍いただいています。お二人には心からお祝いを申し上げますとともに、多年のご奉仕に深く感謝申し上げます。



子どもたちが作品をみている様子

第18回子どもたち作品展

絵本の世界を楽しもう

十四保育園の『子どもたち作品展』が今年で十八回目を迎えました。今年も絵本の世界を楽しもうというテーマで、去る十一月八日ゆめドームの第一競技場において開催しました。

自分たちで作った物で遊ぼうという子どもたちの思いを大切にしながら、今回は絵本の世界を、自然物や廃材を使いリアルに表現し、物語の世界を会場で体験できるよう工夫しました。

まず「はじめてのおつかい」コーナーでは、街並みが迷路のように作られ、子どもたちが実際に買い物体験ができるようにしました。迷路を通り抜け、頼まれたものを買う姿は

真剣そのもので、お母さんから「ありがとう」と声をかけられた時の表情は自信に満ちあふれていました。



小麦粉粘土で、遊びに熱中する子どもたち

「ぐりとぐら」コーナーでは、お料理ごっこを楽しみました。大きなフライパンの蓋を開けると、カステラに見立てた小麦粉粘土がいっぱい。一個ずつもらって、粘土遊びを充分楽しんだ後は、クッキー引換券がもらえ、給食コーナーで交換していただきました。

「おむすびころりん」コーナーでは、子どもたちの作った百十一匹ものねずみたちが歓迎してくれました。そこには、『おむすびころりんすってんてん』と聞こえてくるような愉快なゲームもあり、楽しい広場になりました。穴の中のねずみの家では、紙相撲、お手玉、紙風船など昔ながらの遊びに熱中していただけました。

また、今回は劇団上野市民劇場による「裸の王様」の特別公演もしていただきました。子どもたちが手拍子やかけ声をするなど、舞台と客席が一体となり、物語の世界へと引き込まれていました。今回も約二千七百人の方にご来場いただき、大きな会場には子どもたちの歓声が響き渡り、訪れた方々にも思存分楽しんでいただけたのではないかと思います。

子どもたちの命を守るために ～「防犯講習会を開催」～

近年特に、子どもをねらった凶悪犯罪が後を絶ちません。子どもたちの大切な命を守るために保育園の防犯対策を再点検したり、学ぶ必要性が出てきました。そこで施設安全推進委員会では防犯講習会を計画し、上野警察署員による講話と護身術の講習を受けました。

「とっさの時、子どもたちの命を守るのは、その場にいる自分自身である」ということや、「日頃から不審者などの情報を地域住民から提供してもらえる関係を作っておくことが大切である」ということを教えていただきました。保育者は子どもたちの大切な命を守るため、どんな時でも冷静に判断し、その場に応じた適切な対処ができる力を身につけておかなければならないという認識を再確認しました。



警察署員から護身術を教わる職員

スリランカからのお客様

五月十六日、スリランカに幼稚園を創設された堤ぬい子さんが、園長と職員を案内して曙保育園へ来られました。数日前から子どもたちは、地図や本などでスリランカのことについて調べたり、折り紙でプレゼントを作るなど、ワクワクしながら歓迎の準備をしていました。



子どもたちから手づくりプレゼントを受け取る園長と職員

当日、オレンジ色の衣装を身にまとったスリランカの園長さんの姿を目のあたりにした子どもたちから、めずらしさと驚きの入り交じった歓声があがりました。「こんにちは」「アーユーボウアン」と挨拶をかわし合ったことで、心がなごみました。さらに、一緒に歌をうたったり、手遊びを交流し合う中で、ふれあいや関心が、さらにふくらんだようでした。

わかば会の研修
「生きる力」を培う

保育をめざして



わかば会研修(曙・ひまわりホール)

十四保育園の職員で構成する研修組織「わかば会」は、毎年、福祉従事者としての基礎的な資質向上をはかるための研修計画を立て、地道な実践を行なっています。今年度は保育部会、調理部会に分かれての専門的な研修会と、全員参加による全体研修会を計画しました。

七月に最初の全体研修会を開催し、森下理事長から『これからの保育士に求められるもの』と題しての講話をいただきました。その中で「自分自身をよく知り、日々の努力を惜しんでほならない。総合的な力は急に身につくものではなく、積み重ねが大切。当協会はそういう努力する人材を必要としている。」という言葉は、会員一人ひとりの心にひびいたようでした。

また、「人口減少社会とどう向き合うか」のビデオ視聴も行ない、参加者全員が「この大変な時代を福祉

従事者としてしなければならぬこととは何なのか、みんなで知恵を出し合うことだ」との思いを強くしたようでした。また、わかば会は従来から研修だけではなく、会員の親睦をはかる目的を持ち、この日はコーラスグループ サラダの歌声に、心身共にリフレッシュできるひとときを過ごしました。

今後、保育部会では十四か園を巡回する形でのミニ公開保育と年齢別研修会の実施、調理部会では、より充実した食育の推進と、安全な食事の提供を行なうための研修を実施していく予定です。

最近、虐待や少年による犯罪など、子どもをめぐる事件が増加しています。このような事件につながった要因は何なのか、私たち保育者はこの現実を直視し、今一度考えてみる必要があると思います。

人口減少と少子高齢社会の中で、子どもたちのおかれていた生活実態を把握し、「生きる力」を培う保育とは何かを考えながら、日々努力を続けていきたいと思



手話をまじえたコーラスを披露するコーラスグループ「サラダ」

高校生が保育体験

保育体験実習のため上野工業高等学校の生徒たちが保育園の前に姿をみせるなり、子どもたちから歓声があがりました。この実習は、高校生時代の職業体験が、将来への職業観を連想できる機会になるようにと計画されているようです。その一助になればと、毎年高校生を受け入れています。最初は緊張していた実習生も、子どもたちに囲まれて声をかけられたり、遊びの相手をしているうちにふれあいが深められ、乳幼児理解とともに、職業人としての保育の仕事についても関心が高まったようです。

高校生が作ってくれたパズルや紙飛行機などは、子どもたちにとって特別なもののようで、実習生が来てくれた3日間は楽しく盛り上がりました。



ふれあいあそびを体験する高校生(みどり第二保育園)

ミニ子育て支援事業

花之木ひろば

十四保育園全園でミニ子育て支援事業を実施するようになり早くも九年目を迎えました。今回は花之木保育園で実施している 花之木ひろばを紹介します。

この事業は、地域の未就園児親子を対象に、育児相談の実施と、年間七回 花之木ひろば を開催していきます。花之木ひろばでは、園児とのふれあい遊びや、参加者同士の交流などを行なっています。中でも、園児とともに祝う誕生会は「大勢の

友だちにお祝いしてもらって嬉しい」と好評です。子どもたちの遊びを見守りながら、お母さん同士がおしゃべりすることで、育児の不安や悩みが軽くなり、次回の 花之木ひろば が待ち遠しいようです。

今後も地域の子育て支援の場として、十分活用していただけるよう、充実させていきたいと思



ミニ子育て支援のお誕生日会

理事長卓話

八月十五日(終戦記念日)の終戦記念日、この日は毎年理事長から終戦にちなんだお話があります。今年も各施設の利用者の方が集會室に集まり、話に耳を傾けました。

大連での戦争の悲惨さや、ラジオから流れてきた昭和天皇の終戦を告げる声、引揚船で帰ってこられたときの様子などを聞かせていただき、そのときの生々しさは誰よりも利用者の方々が一番共感されていました。今年「ララ物資」のことを話してくださいました。アメリカが日本の救済、援護のために送ってきた物資であった、そのララ物資の言葉に利用者の方から「懐かしい、思い出した」と声が上がりました。

「戦争は辛かったが、今は理事長卓話を楽しみにしています」との声も多く聞かせていただきました。



終戦記念日に卓話する森下理事長

介護予防教室

「自分らしく老いるために」

在宅介護支援センターなしのきでは、去る九月二十六日、今年度七回目の介護予防教室を開催しました。

今回は長田老人クラブ連合会の皆さまから「痴呆症について知りたい」とのご依頼があり、教室には三十名の方に参加いただきました。

教室では、単なる物忘れと痴呆症となる病気、栄養障害や薬の副作用も原因となること、そしてその予防ポイントについて、クイズやカードを使って紹介しました。また、今や

四十代の三人に一人、五十代の二人に一人といわれる隠れ脳梗塞の簡単なチェック方法なども紹介させていただきました。

予防の鍵は日常生活にあることを改めて感じていただくと共に、この教室の内容が参加いただいた皆さまの元気の源になっていければと願っています。



長田老人クラブの皆さんが参加されました

いただきます

=冬の野菜=

冬の足音が聞こえてきます。この季節の野菜は病気や風邪の予防を助けてくれます。旬の野菜を使った料理を作り、冬を乗り切りましょう。

【ブロッコリー】

ビタミンCやカロチン、カルシウム、鉄分、食物繊維がたっぷり含まれている栄養価の高い優良な野菜です。動脈硬化やガン予防に効果があります。(※調理の際、ビタミンCは水に流れ出してしまうので注意しましょう。)

【大根】

大根オロシにすると、消化酵素のジアスターゼが胃腸の働きを活発にし、胃腸の調子を良くしてくれます。また、食物繊維も豊富で美容に大敵の便秘防止にもなります。捨ててしまいがちな葉の部分にも、ビタミンCやカロチンが豊富です。

【白菜】

白菜には、ビタミンCやカルシウムが豊富に含まれています。煮ると芯まで軟らかくなり、消化も良いので胃弱の人や病人の食事に最適です。カロリーも少なく、太ることを心配せずにたくさん食べることができます。

冬の代表的な料理、鍋やおでんに冬野菜をたっぷり入れて、冬を元気に過ごしましょう。

ふるさとを訪ねて

梨ノ木園では、「心の中のふるさとを大切に、訪問することで思い出づくりを」を目標にして、ふるさとを訪ねてという行事を行なっています。

七月二十日には、小竹富蔵さん(74歳)が美杉村にある実家の菩提寺を訪ねられました。弟さんが迎えに来てくださり、一路懐かしい美杉村へ向かいました。

小竹さんは、ふるさとや墓地の様子をうなづきながら熱心に聞いておられました。お墓参りのあと、近所の叔父さん宅を訪問しました。叔父さんのはからいで従兄弟さん二人も呼んでくださり、にぎやかな再会となりました。思ってもみなかった人たちと出会うことができ、小竹さんは終始感慨深げでした。

美杉村を離れて二十五年の歳月が流れていきましたが、小竹さんの記憶は鮮やかで、皆さんとの会話も弾みました。話は尽きませんでした。またの再会を約束し、ふるさとを後にしました。



美杉村に帰郷して、墓参りする小竹さん



親戚の方との話はなつかしさがいっぱいでした

秋景色の中で 第三回往古梨まつりを行なう

(模擬店から通算35回)

十月十九日、素晴らしい秋晴れのもと、第三回往古梨まつりが行なわれました。



緋毛氈に三味線を携えた淡い和服姿がより一層映えました。

梨ノ木園 開園時の模擬店から数えて、通算三十五回目となり、梨ノ木ひろばは、ご家族や地域の方、ボランティアの方など約五百名で賑わいました。

十時三十分、梨ノ木ひろばで開会式。午前の部の最初のアトラクションは、コーラスグループ「ステラ」の登場です。結成八年を迎える「ステラ」は、東構昌子先生にご指導いただいている当法人職員で構成されたコーラスグループです。 兎追いしかの山： から始まった『ふるさとの四季メドレー』は、会場の皆様の方に、思いおもいの故郷を偲ばせてくれたことでしょう。

続いて、小林ふじ智先生を代表とする「民謡ふじ智会」の皆様による『唄と三味線』の演奏です。三味が鳴り民謡が流れると、ピンと張り詰めた雰囲気とともに、古くから守り育てられてきた日本人の心意気が伝わってくるようでした。ふじ智先生には、梨ノ木園の民謡クラブを二十余年にわたってご指導いただいております。

第二梨ノ木園では、日本古来の芸能「南京玉簾」を楽しみました。ご家族も一緒にご参加いただき、お孫さんにも大うけでした。写真は南京玉簾に挑戦中の様子です。

梨ノ木園では、民謡クラブや詩吟クラブなど日頃の活動の成果や、職員による台所用品を使った演奏を発表しました。写真は器楽クラブの発表です。

午後の様子

アトラクションの後は、味ごはんと豚汁などの模擬店でお昼をゆったりとお過ごしいただき、梨ノ木園、第二梨ノ木園、梨丘園、なしのきの各会場で、それぞれ特色を生かした催しを楽しんでいただきました。

梨丘園では、車イスダンスをしました。普段は人と手をつなぐ機会がなかなかありませんが、ダンスの中では自然と手をつなぐことができます。ご利用者も大喜び、大盛況でした。写真は車イスダンスを楽しんでいる様子です。

デイサービスセンターなしのきでは「遊ビリレーション」と題したリハビリを交えた踊りや歌で盛り上がりました。玄関先では綿菓子やポップコーンを作って、来園された方々にお配りしました。写真はリハビリ体操を楽しまれている様子です。

きれいになりました

— 特養第二梨ノ木園 —

八月より改修が進められてきた特養一階ラウンジと二階浴室の工事が十月十五日に完了しました。新しくなったラウンジは木材がふんだんに使われ、ゆったりとした家庭的な雰囲気になるよう工夫されています。月に一度開いている喫茶 ティールームついでいあらたにし、利用者の皆さんに好評をいただいております。

浴室は、壁面のタイルから天井にいたるまで、白を基調に暖色系の色合いで統一されています。明るい照明とあいまって、温かみのある空間を演出し、お世話させていただく職員にとっても、改修前より広々と使わすくなりました。入浴は皆さんがとても楽しみにされています。新しくなったお風呂で、湯船にゆっくり浸かっていただき、心も体もリフレッシュしていただいております。



特養の脱衣場と浴室



特養の食堂ラウンジ

元気に百歳を迎えました

第二梨ノ木園に入園されている田中初さんが、今年四月十九日に満百歳をお迎えになりました。田中さんは当施設に入園されて十三年になります。年齢を感じさせない愛らしい女性です。九月十二日には、思い出っばいの和服を着て、内閣総理大臣表彰状と記念品の銀杯をいただきました。「大好きなお酒をこれで飲めたら美味しいよねー」と、紀州なまりで話され、微笑んでおられました。主治医の先生の太鼓判をいただいて美味しそうに銀杯で晩酌をされています。「長生きできるわー」

と明るく言われる声を職員も嬉しく聞かせていただいています。

満面の笑顔で喜びを表現している田中初さん



ほけんだより

床ずれ（褥瘡）について

今回は、私たちにとって身近な病気の一つである床ずれ（褥瘡）についてです。床ずれは、長時間（約2時間程度）の圧迫で、圧迫部位の血流が途絶えて、皮膚が死んでしまうために起こります。寝返りができない寝たきりの状態や、車椅子に座り続けたりすることでできます。おむつかぶれをしていたり、骨が出っ張っている部分はさらにできやすくなります。予防法として、寝たきりの方は2時間おきくらいに体位を変換したり、床ずれ予防ベッド（体圧分散寝具）を使用したりします。床ずれは一度起こると大変治りにくいので、予防・早期発見が第一であることは今さら申し上げる必要はありませんが、骨の出っ張り部分の皮膚のわずかな赤みを見逃さないことです。入浴時、おむつ交換時に必ず皮膚を観察して下さい。皆様の熱意と執念があれば床ずれゼロになります。床ずれの発生率はその施設の愛情度と極めて相関します。

梨ノ木診療所 医学博士・谷本廣道

歌をうたいましょう

デイサービスセンター「なしのき」では、毎月、歌をうたいましょう週間 を実施しています。利用者の方々から前もって歌いたいと思う曲をリクエストしていただき、歌詞を



リクエストした曲を大きな声で歌っています

大きく書いた用紙を作成し、皆様が歌いやすいように工夫しています。また、曲に合わせた体操もしています。歌の紹介では、いろいろな話題やエピソードも話し合い、利用者の皆様から教わることでたくさんあります。普段口数の少ない利用者の方も、マイクをお持ちすると、びっくりするような大きな声で歌ってください、楽しい会話も弾みます。

これからの趣向を凝らして、利用者の方々が楽しんでいただける内容にしていきたいと思っております。

インターネット

楽しんで活用しています

梨丘園の利用者から「インターネットをしたい、できる場所がほしい」という声が出ていましたが、このほど早速パソコンを設置していただきました。インターネットに接続し、利用者の方が自由に使用できるように二階フロアのテーブルに置きました。日々、使用する方が増え、会話の中でも話題になり、活用されている様子が見えられます。さまざまな情報が得られることで、趣味の幅が広がったり、いろいろなことを選択肢が増えていくと思います。

これからは、生活にかかせない情報資源となっていくのではないかと考えられます。職員と一緒に情報を検索する姿が見られ、パソコンのまわりは毎日にぎやかです。



インターネットを楽しむ利用者

お知らせひろば

ご支援ご協力いただいている方々
(平成十五年六月〜平成十五年十月)

個人

敬称略

- 味岡 一典、東 弘作、荒井祥二朗、飯代 和子、池澤 仁美、石原 京子、市川 辰政、稲垣紀代子、猪木 千里、今井 克代、今西智恵子、上田 順子、上田 甫、上谷 隆昭、上山 秀實、有野 康昭、大久保利弘、大澤 由美、太田喜久夫、大西 利久、大野 利江、大藪 宏、岡島 徹子、岡森真理子、岡森 明彦、奥田 英夫、垣内 孝則、川上 次夫、川浪 玲子、北寺 知一、木戸かよ子、葛原 直樹、櫻 悦子、後藤 のぶ、小林ふじ智 坂下 充信、佐々木聖子、澤田 泰代、澤山 正治、嶋地 秀昭、清水 當子、清水 恩、朱雀 文雄、須川きよ子、杉本ちえみ、世古 秀次、千歳 千津、曾我 京子、空森 栄幸、高村 豪、竹島 和美、田中 しえ、田中 澄夫、田中美代子、谷出 治、谷本 善、玉川 弘毅、堤 めい子、寺岡 實、東川香代子、戸上 宗賢、豊田 実、中井 克明、中住 豊、中出 潔巳、中原 尚美、中原 宏、中村 節子、中村 昌子、中森 勇、中森美年子、中山 重男、西出 成子、西山 進、長谷川か子、畑中 政実、治多 裕益、服部 康祐、平井 弘郎、福田 典子、藤井 恵美、藤牧 隆子、藤本みつ子、藤森 三重、別所 法山、前川 賢一、町野フサエ、松生 治、松尾 節子、松田 幹郎、松永 清、松本 学、松山 周子、丸井 規義、三村 久子、宮崎 慶一、三山 文則、三好 寅臣、向 かよ子、村下 小花、村井 充子、森 喜良、森下 智、森下 弘子、森田 満枝、森本 孝夫、森本 剛士、森本 久子、山口宇三郎、山口 徳平、山口 義美、山本 浜子、吉岡 登、吉岡 正巳、吉川 美喜

団体

敬称略

- にんじんクラブ、ボランティアグループあゆみ、ボランティアグループミックスジュース、上野点訳奉仕グループあい、名張点訳奉仕グループあかり、上野音訳グループしのび、名張音訳グループこだま、絵手紙いろは、

- 民謡ふじ智会、光都の会、恒風寮、あけぼの学園高等学校、上野工業高等学校、上野商業高等学校、岡波看護専門学校、高田短期大学、長田小学校、上野市、上野市議会、南山城村、大内地区、大滝地区、大野木地区、小田公民館、小田町自治会、桂地区、桑町自治会、七本木地区、白樺地区、しらさぎ地区民生児童委員協議会、成和地区民生児童委員協議会、中瀬区長会、長田公民館、長田地区自治会、治田地区、花垣地区、花垣地区市民センター、花之木公民館、花之木児童福祉会、古山区長会、古山区地区児童民生委員、古山区市民センター、法花地区、予野地区、三田公民館、三田地区自治連絡協議会、上野ロータリークラブ、上野東ロータリークラブ、上野市文化都市協会、上野市更生保護婦人会、上野市視覚障害者福祉会、上野市身体障害者福祉連盟、上野市手をつなぐ親の会、上野市飲食業組合、上野市老人クラブ連合会、大野木ゆうゆうクラブ、長田老人クラブ連合会、白ゆり会、水月会、朝屋婦人会、長田地域婦人会、長田老人会婦人会、上野市仏教会、射手神社、西蓮寺、常住寺、大仙寺、大超寺、天理教栗太分教会、天理教神興分教会、平井神社、
- J A伊賀北部長田ふれあい店、J A伊賀北部古山ふれあい店、J A伊賀北部花垣ふれあい店、J A伊賀北部花之木ふれあい店、J A伊賀北部中ふれあい店、伊賀上野駅前郵便局、今岡米穀店、魚留商店、大内郵便局、おかもり酒店、小川整備、小川モータース、奥田理髪店、金谷、かねまた運輸倉庫、グリーンティ高尾、甲野屋、コーカ共同製茶、親和工務店、竹澤商店、伊達魚店、田山第一共同製茶工場、

ゆめが丘保育所 増築園舎完成

かねてからの念願がかない、増築園舎が完成しました。

十月一日には、上野市権蛇助役様や当法人森下達也理事長をはじめ、関係の方々にお越しをいただき増築お祝いの会を行いました。あわせて、今年度四月に入園を予定して六カ月間自宅にて、あるいは他園へ入園して待機していた二十二名の子どもたちが元気に入園をしました。



増築された園舎



子どもたちと一緒に鈴割りでお祝いました

法人内研修

今年度も昨年度に引き続き、「法人内研修」を計九回の予定で実施しています。

すでに、◎「感染症とその予防対策」◎「生活の中の法律」◎「私の教育根っこ論」など五回の研修会を終え、今後は、◎「アルファベットいろは歌」他四回の研修会を予定しています。

昨年同様、様々な分野から講師の先生方をお招きし、研修内容もより充実したものになっています。混迷する社会情勢下においても、的確な判断と柔軟な発想ができる人材の育成を主眼に置き、個々のレベルアップを図っていきたいと考えています。



「生活の中の法律」をテーマにした上山秀實弁護士の講演

編集後記

このたび上野市社会事業協会「2003」第5号を発行させていただき運びとなりました。ご支援ご協力いただき、ありがとうございます。次号は2004年の発行会になり、みだしも上野市社会事業協会「2004」へと変わります。

来年のことを言うと鬼が笑うといいますが、2004年(平成16年)はどのような年になるのでしょうか。新しい年こそは、素晴らしい社会への第一歩となるよう願うばかりです。

「伊賀を撮る」のコーナーは今号で2回目となります。普段見過ごされている通勤途上の風景や、伝統行事など、職員それぞれが感じる「伊賀」をカメラに収めた作品を掲載しています。伊賀の魅力を再発見する良い機会になっています。(編集子)

“伊賀”を撮る



「上野天神祭宵宮」
松生泰子(曙保育園)



「鯛ヶ瀬から望むやぶっチャランド」
山京子(曙保育園)



「鬼と子ども」
松田晴美(古山保育園)



「紅葉しはじめた藤堂屋敷」
山下貴史(本部事務局)



「伊賀くの一 忍者屋敷の前で」
山出栄子(ひかり保育園)



「白鳳城と子どもたち」
森川経子(府中保育園)



「花火」
瀧口光教(上野点字図書館)



「伊賀牛と少女」
稲森美智子(かしの木ひろば)



1	盲養護老人ホーム 梨ノ木園 (定員) 70人
2	特別養護老人ホーム 第二梨ノ木園 50人
3	老人ショートステイ 20人
4	老人デイサービスセンター なしのみき
5	在宅介護支援センター なしのみき
6	梨ノ木診療所
7	曙保育園 180人
8	睦保育園 90人
9	三田保育園 60人
10	中瀬城東保育園 115人
11	友生保育園 60人
12	花之木保育園 60人
13	予野保育園 45人
14	長田保育園 45人
15	古山保育園 45人
16	みどり保育園 150人
17	心身障害児療育施設 かしのみ園
18	ひかり保育園 120人
19	みどり第二保育園 120人
20	府中保育園 90人
21	ゆめが丘保育所 180人
22	上野点字図書館
23	上野市盲人ホーム
24	在宅障害者デイサービス施設 かしの木ひろば
25	伊賀広域在宅障害者生活支援センター かしの木
26	身体障害者療護施設 梨ノ木園 20人
27	児童クラブ フレンズうえの
28	児童クラブ キッズうえの
29	児童クラブ ウイングうえの
30	法人本部事務局